

地域文化・芸術資源を可視化し、地域の結びつきを創生する

なにわ・大阪にかかわる文化・芸術資源をICTによって掘り起こし、地域の誇りと愛着を醸成することで社会的協力のプラットフォームを生み出す。



関テレ風町スクエアにて開催した「淀川今昔明日ものがたり」

活動の概要

目的	エリア・アセット（地域文化資源）を超高精細デジタル化し、多様な社会層を学生の力をかりながら接続する
連携メンバー	関西大学VOLCANOプロジェクト／関西大学社会的信頼システム創生プロジェクト（STEP）／一般財団法人林原美術館／ビジュアライゼーション・ラボラトリー大阪（VisLab OSAKA）／株式会社日立製作所・多摩美術大学／関西大学なにわ大阪研究センター／関西大学社会学部教授 林直保子／同学部教授 与謝野有紀／関西大学文学部教授 中谷伸生／関西大学総合情報学部教授 林武文／関西大学シニアURA 角谷賢二
活動地域	なにわ・大阪と文化、経済など重層的にかかわりがある地域
活動期間	2014年4月～（継続中）

連携の経緯

関西大学は、天神橋筋商店連合会および大阪市北区とすでに連携協定を結び、同地域の地域活性化に取り組んできた。この展開として、なにわ・大阪のエリア・アセットの掘り起こしにあたり、同地域に焦点をあて文化資源の展示を行うこととなった。また、林原美術館（岡山市）所収の天満天神にかかわる文化資源の超高精細デジタル化を行い、ICTに関して先進的であるVislab OSAKAと協力しその展示を行うにいたった。

解決すべき課題

- (1) 地域に埋もれている文化資源の掘り起こしと再評価
- (2) 地域文化資源（エリアアセット）のICTを用いた可視化
- (3) エリアアセットの鑑賞者の育成
- (4) エリアアセットを用いた社会層の交流
- (5) 文化を基礎とした協力基盤の形成



林原美術館で超高精細画像を鑑賞する高校生①



大岡春木の絵巻物『浪花及瀬川沿岸名勝図巻』撮影の様子 グランフロント大阪にて開催した「淀川今昔明日ものがたりⅢ」

大学の役割

本プロジェクトは、文化を切り口にしているが、その背景にあるのは、日本全体にみられる孤立化の問題を「地域創生」の共通の基本課題ととらえ、人文科学、社会科学、情報学の共同研究に基づき、地方と都市が連携しながら地域内の課題を解決しようとするものである。また、地域創生を4つの発展段階に分けて整理し、「地域文化の再評価」、「地域文化への誇りと地域への愛着の醸成」、「誇りと愛着を基礎にした協力的行動の社会関係基盤の構築」、「社会関係基盤をプラットフォームとした社会問題の解決、社会効率の向上」の各段階をクリアしながら着実な課題解決をめざそうとするものである。特に、第一段階である地域文化の再評価は、スタートとして極めて重要であり、大学のもつ美術史的な知的資源が大きく機能する。さらに、地域文化への誇りと愛着の醸成は、地域文化に人々が触れる機会の拡大と、鑑賞者として地域の人々が育っていくことの両者が必要であり、前者に関しては、本学の情報学的技術が、また後者に関しては社会心理学的知見が適用される。

これらを通じた社会関係基盤の構築と、それにもとづく社会問題の解決は、本プロジェクトの展開形として、現在設計されつつあるが、ここにおいては社会学的モデルの適用が考えられている。

大学が、多様な社会層を結びつけるハブとなること、特に、本学に深くかかわるなにわ大阪の文化を中心としてこのようなハブになっていくことが大学の中心的な役割となる。

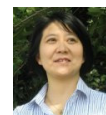


林原美術館で高精細画像を鑑賞する高校生②

成果

- (1) 超高精細デジタル展示「淀川今昔明日物語」シリーズ
- (2) 林原美術館特別展「すべて魅せます平家物語絵巻」特別協力
- (3) 林原美術館の特別展「すべて魅せます備前刀 古備前派・一文字派・長船派、そして末備前」特別協力
- (4) 多摩美術大学美術館 「デジタルアイズー文化財「新」発見ー」協力

研究者の紹介



社会学部 教授
林 直保子
(はやし なほこ)

北海道出身。専門は社会心理学。近年は、社会の中で信頼が醸成される条件とはなにか、また、人の信頼感を支えている心理メカニズムとはどのようなものか、という研究テーマに取り組んでいる。



社会学部 教授
与謝野 有紀
(よさの ありのり)

東京都生まれ。文部科学省の助成を受けた関西大学社会的信頼システム創生センター（STEP）のセンター長として、地域活性化に対する社会的信頼の機能を実践的に明らかにする研究を展開した。膨大な数のプロジェクトを統括し、安全安心や過疎化が進む地方のあり方など、社会的課題の解決に全精力をもって取り組む。



文学部 教授
中谷 伸生
(なかたに のぶお)

日本美術史、特に江戸時代から近代までの日本絵画史と芸術論を専攻。江戸時代の文人画・写生派・狩野派から、明治以降の近代日本画・洋画の調査研究を進めている。



総合情報学部 教授
林 武文
(はやし たけふみ)

専門は視覚認知情報処理。視覚を中心とした人間の情報処理メカニズムを解明し、ヒューマンインタフェースにおける情報の提示方法を明らかにすることを目的に研究を行っている。